

北陸セミナー報告

発表者: 川横 幸雄

企業名: 株式会社松浦機械製作所

役 職: 生産本部 加工マネージャー



Industrial
Value Chain
Initiative



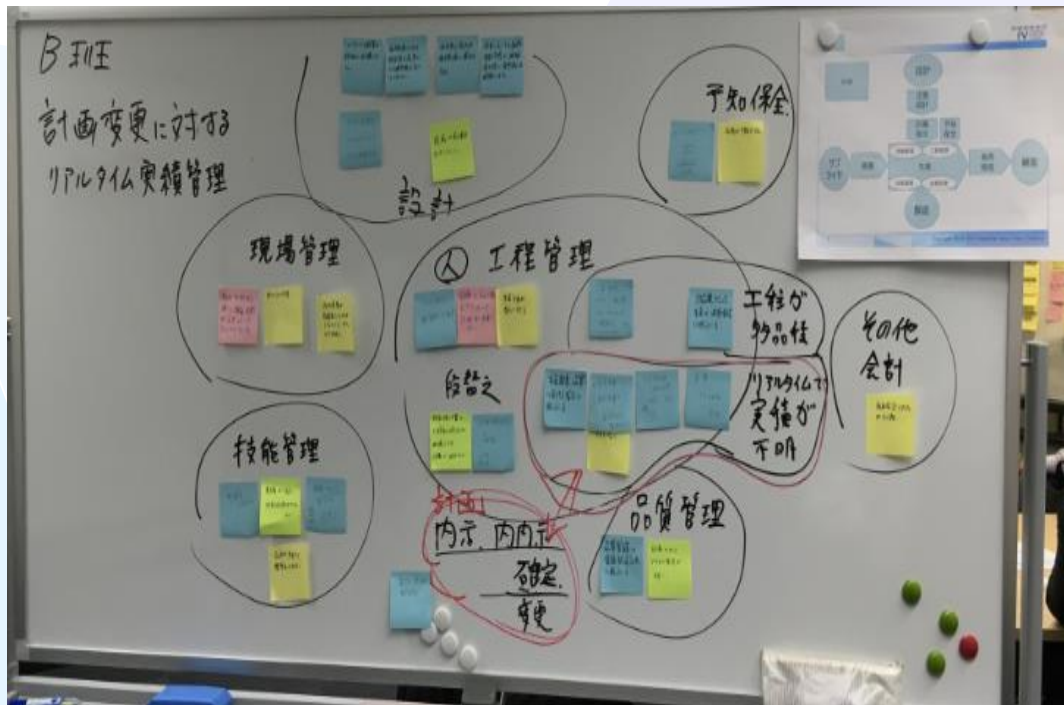
発表 B班

B班	氏名	企業名
受講者	川横 幸雄	(株) 松浦機械製作所
	稲垣 聡	北陸電気工業(株)
	大井 優	(株) リッチェル
	宮腰 英治	前田薬品工業(株)
	大井 隆嗣	ファインネクス(株)
	土生居 秀明	塩谷ガラス(株)
インストラクター	渡辺 嘉彦	矢崎部品(株)
協力企業	山崎 幸子	YKK(株)
	円角 善規	中村留精密工業(株)
ITサポーター	後 和男	(株) アートテクノロジー
	酒井 正幸	北陸通信ネットワーク(株)
	熊膳 成祥	(株) インテック

困りごと・現状(抽出)

・各自の業務における困りごとを抽出

困りごととは、多部門、多工程に及ぶ



ものづくりの
会社でも、
分野はさまざま

不安の中での
スタート

困りごと・現状 工程(その1)

◆現場管理

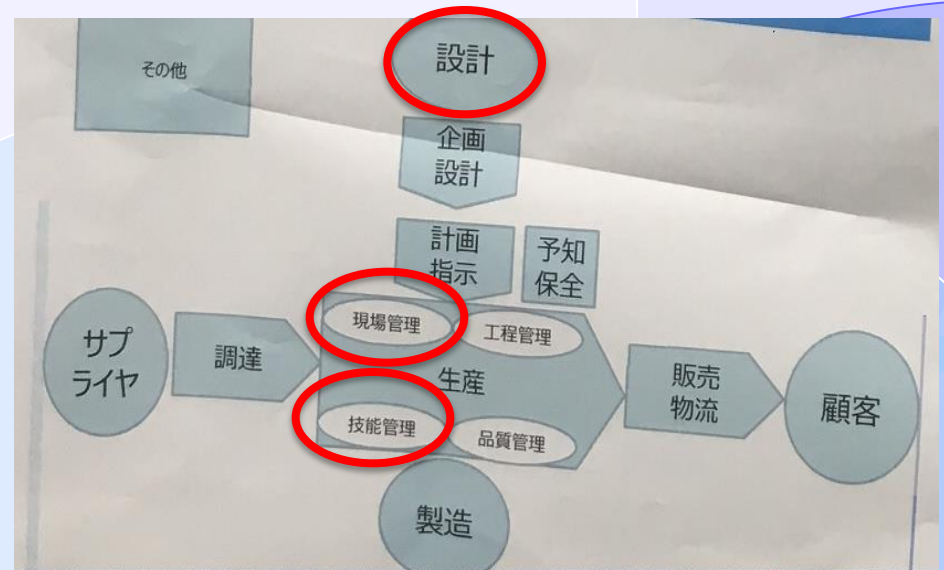
- ▷加工を行う際に部品材料が不足して工程ストップしている
- ▷紙ベースの作業指示
- ▷社内業務が部署間で見えず報告にタイムラグがある

◆技能管理

- ▷教育が不十分
- ▷技能伝承進まない
- ▷品目が多すぎて標準化できない

◆設計

- ▷ユーザでの装置評価ができない
- ▷設計の手順書守らない
- ▷設計の経験値能力に開きがある
- ▷設計において勘所が解らない
- ▷現場の困り毎が解っていない。
- ▷経験値の少ない設計者が参考値を見つけれない



困りごと・現状 工程(その2)

◆品質管理

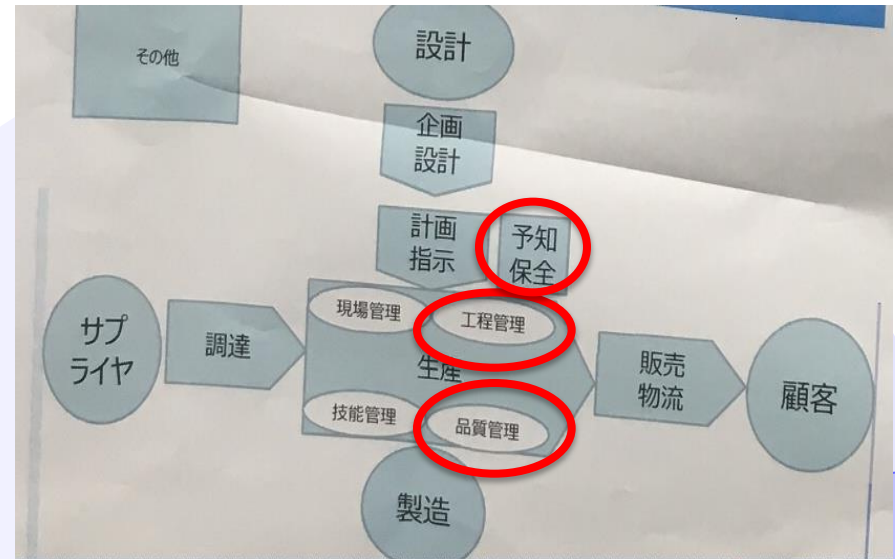
- ▷結果のみでプロセス管理ができない
- ▷品質管理の情報伝達されない。

◆予知保全

- ▷機械の故障が予知できない

◆工程管理

- (人)
 - ▷人の稼働率が見えない
 - ▷生産計画が変わりすぎる
 - ▷設備と人との工数をマッチした計画ができていない
- (段取り替え)
 - ▷段取り作業の工程毎の時間が把握できず改善が進まない
- (工程の多品種)
 - ▷多品種少量生産の進捗管理に困っている
 - ▷生産数量／品質に関する指示ができない
- (実績の把握)
 - ▷進捗がリアルタイムに管理できない



テーマの選定

困りごとで1番多いのが、工程管理



分野は違っても、ものづくりは同じ 悩みも同じ

目指す姿

【問題点】

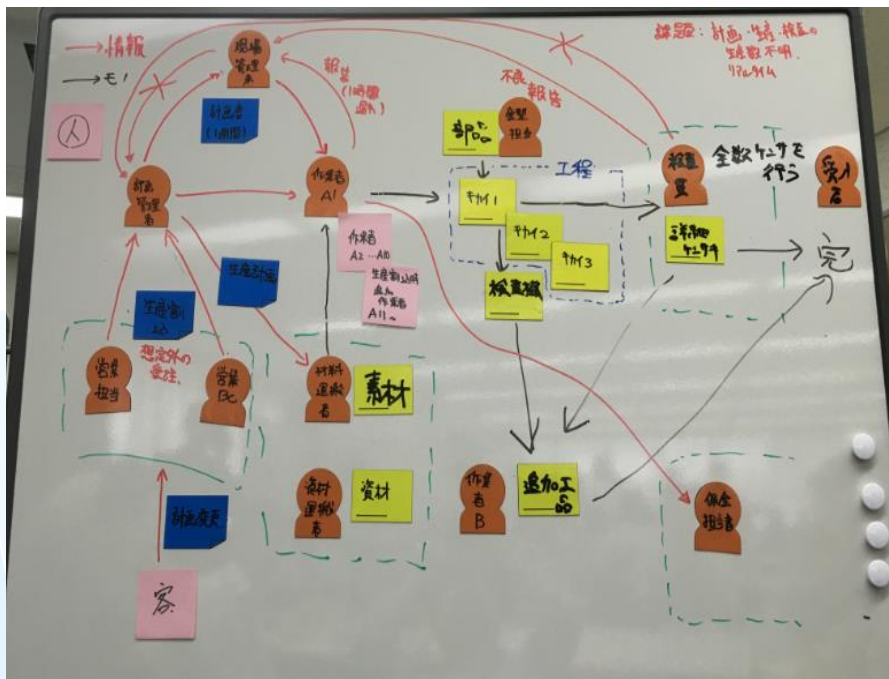
顧客からの想定外の受注や、予期せぬ設備故障等の発生時にリアルタイムな生産状況がわからないため、負荷の平準化された生産計画をたてることができない。



【目指す姿】

変化に即応できる生産計画作成人の割り当ての適正化

AS-IS 全体像(人・物・情報の流れ)



受注→生産→出荷

人の配置



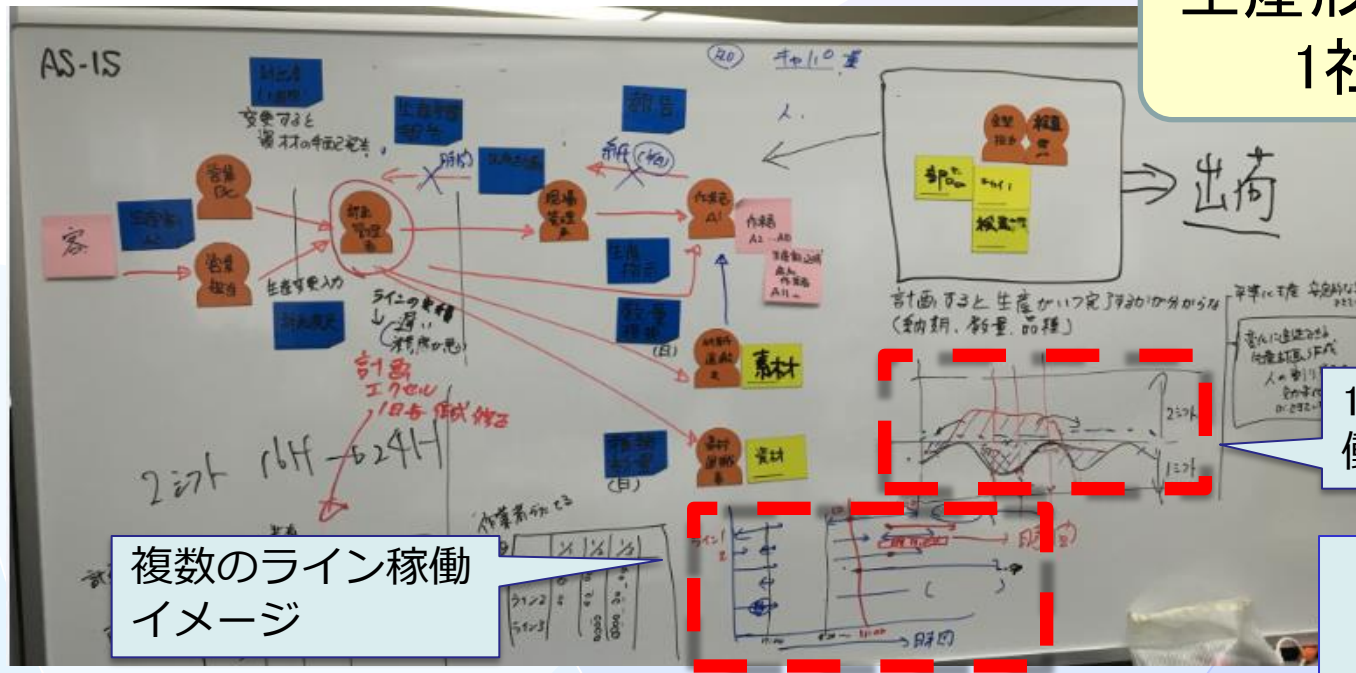
もの・情報の
流れを整理 分析

共通する一般的な構図

AS-IS 生産工程にポイントを絞込み

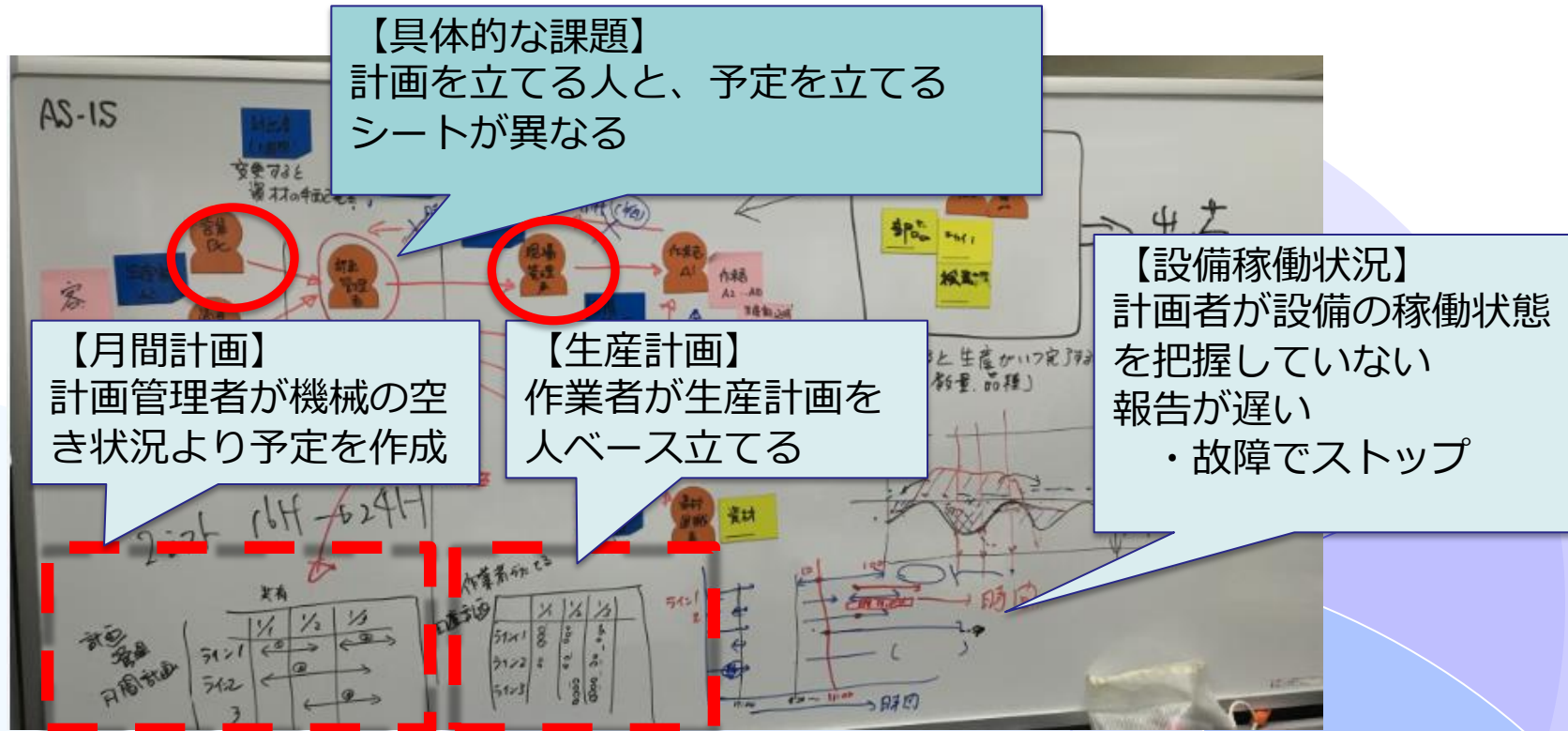
生産計画から生産終了までに絞込み

生産形態の違いから
1社をモデル



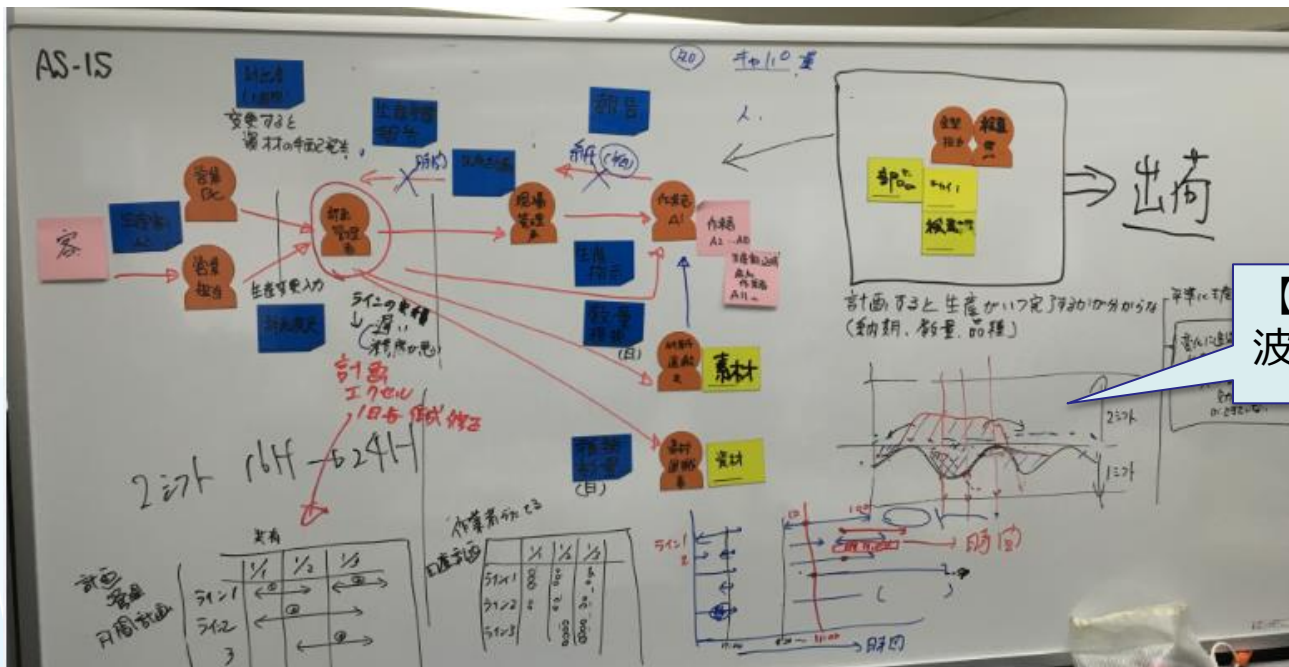
設備稼働イメージの共有 ➡ 図

AS-IS 流れが悪くなる要因



他企業同士の集まり
用語の意味の理解を統一 → 図

AS-IS(やりたい事と前提条件)



【やりたい事】
波（負荷）の平準化

【負荷の平準化の案】

- ▶ キヤパを増やす
 - ▶ 機械能力向上
 - ▶ 人の能力向上
 - ▶ 段替え能力向上
- ▶ インプットのコントロール
 - ▶ 納期調整
 - ▶ 生産計画の優先順位決め

【負荷のできる理由】

市場の要求があった場合に突発発注がある。

例) インフルエンザ 等

【前提条件】

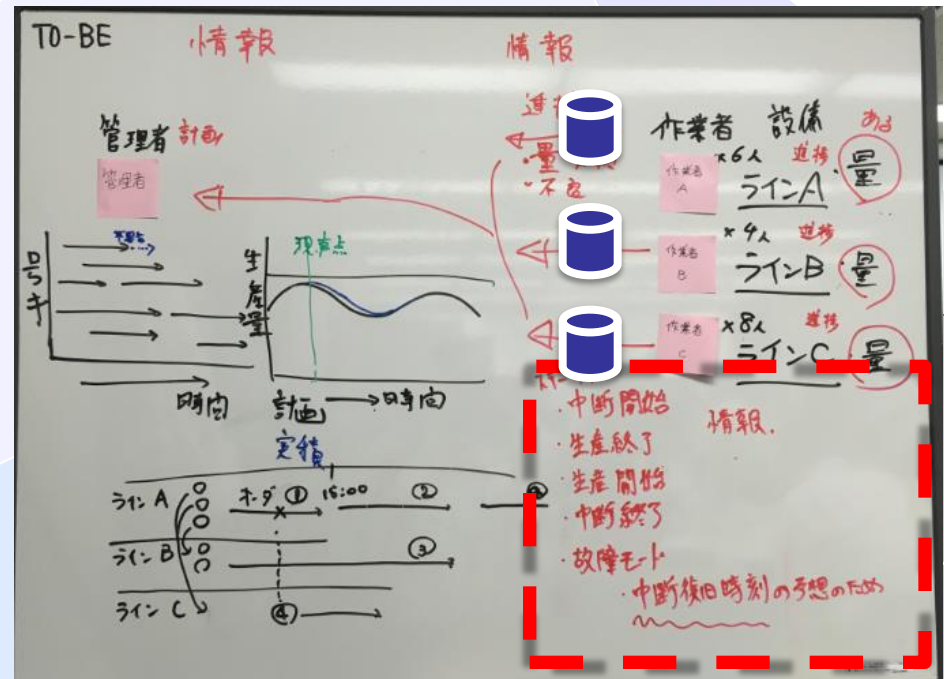
- ・部材は準備はできている
- ・客からの受注はしょうがない
- ・納期は守る
- ・在庫は持ちたくない

TO-BE あるべき姿

生産の進捗状況、ステータスを「計画管理者」がリアルタイムに見れる事で平準化した生産計画を再編できる。

- ・設備の稼働情報
実績
ラインのスタート・エンド
故障・復帰予定
- ・人の配置
どのラインで作業

リアルタイムな情報を
計画管理者が把握できること



変化に即応出来る生産計画作成
人の割り当ての適正化

受講の感想・・・視界が開けた！

1 製造業には多くの共通課題がある

同じ物づくり、悩みは一緒

2 IVI手法・・・共感し納得した

現場視点でのAS ISの解明 その上にたって TO BEを描く
そのプロセスが正しいアプローチだということを学ぶ

3 この手法を社内に浸透させるのが役割

生産性向上に加え新たな付加価値を生み出すことを目指す

■生産・開発 ⇒ 自社の強みをスマートに、より強固に

■他社との連携模索 ⇒ 新たな気づきを期待

【課題】 1人では荷が重い！

社内や社外でのネットワークをつくることから始める

ご清聴
ありがとうございました